

ットワーク利用が進めば、遠隔地の参加にも不便はない。経費の分担処理等の経理上の処理に多少の繁雑さが伴うかと思われるが、学内で学部・研究所を問わず相互に分担購入・共同利用が進められるようになれば、一層経費の効率的な活用が図られるのではないかと思う。

なお、取りまとめは発案した理学部で担当した。連絡事項等は山路助教授に多くをしてもらうことになったが、3部局の窓口はしっかりと決めていただけており、図書室側から電子メールを入れるとまもなく返答が電話であるなど、不便は感じなかった。

5. まとめ

研究者の話によると、「現代の研究は綿密な文献調査から始まるが、星の数ほどある学術雑誌すべてに目を通し、関連する論文を捜すのは極めて困難である。そのような状況から、各種学問領域毎に文献データベースが整備され、さらにCD-ROM化されて提供され始めている。欧米の大学では図書館に学部生も利用出来るシステムが普及しており、本学で

も今後こうした設備の充実が求められ、大いに期待したい」とのことである。

今回、見本の到着から利用にいたるまで実に1年かかった。その間購入を希望された山路助教授が電子メールを使ったり直接話をされたりして、色々な対応をねばり強くしてくださったこと、メジャーとは言い難い資料の受け入れを、附属図書館が快諾していただいたことが実現に大きな力となった。附属図書館では大学全体で利用する汎用性の高い資料を備え付けることが望ましい、という意見がある。全くそのとおりで、相互補完の意味から部局側では、限られた専門分野のCD-ROMを学内LANで提供する、といった役割分担が果たせればよいのだが、いかんせん現段階では力量がない。今後新しいメディアの資料を学内でどういう分担にして提供していけばよいか、まだまだ見えていないことが多い。この種の資料が増え、部局において取扱いに慣れた人が多くなれば、附属図書館は大学全体をカバーするものを、部局は専門をカバーするものというふうな、相互分担の方向が望まれるのではないか。

アメリカの大学図書館訪問記：I MIT (マサチューセッツ工科大学)

附属図書館専門員 片山 淳

1. はじめに

平成8年3月16日から23日までの8日間、アメリカ研修旅行に参加する機会に恵まれ、多少会話に不安を覚えながらも、ボストンにあるMIT (マサチューセッツ工科大学) とロサンジェルスUCLA (カリフォルニア大学ロサンジェルス校) の図書館を訪れることができましたので、そこでの見学で得た図書館関連の話を紹介したいと思います。なお、今回の研修旅行は、学術振興会の援助によるもので、京都大学の5名のメンバーで構成された一団でした。このような機会を与えてくださった関係者の方々に、紙面をお借りしてお礼申し

ます。また、同行された4人の方々にも、感謝いたします。

なお、以下の文章は、文末に記した収集できた資料群から抽出してまとめたものです。

2. マサチューセッツ工科大学図書館

2-1. ATHENAミニコース

まず、目についたのは、ATHENAと呼ばれているMITの情報環境を指すネットワークシステムです。梟 (ギリシャ神話で知恵の神アテナ女神のシンボル) のマークの入った、

”Information Literacy”を高めるためのすべての構成員を対象にした情報処理教育の月間スケジュールとコースの概要を紹介した資料がありました。(図1)

図1

All MIT Students, Staff, & Faculty invited Spring Term 1996 Minicourse Schedule



Athena Minicourses

Schedule and Index
Spring Term 1996

New This Term:
HTML -- learn to make your own WWW pages
FrameMaker -- now in two parts: **Frame** (Intro) & **Frame Thesis**

	Mon	Tue	Wed	Thu
12 noon	12 Feb	Info Res	13 Feb	HTML
7 p.m.		Info Res		Info Res
8 p.m.		HTML		HTML
12 noon	19 Feb	Holiday *	20 Feb	HTML
7 p.m.		✓ No Classes	✓ No Classes	21 Feb
8 p.m.		President's Day		MSO
12 noon	26 Feb	Intro	27 Feb	Basic WP
7 p.m.		Intro		Working
8 p.m.		Basic WP		Working
12 noon	4 Mar	Ser. Emacs	5 Mar	Dotfiles
7 p.m.		Ser. Emacs		Ser. Emacs
8 p.m.		Dotfiles		Dotfiles
12 noon	11 Mar	HTML	12 Mar	Info Res
7 p.m.		Info Res		Info Res
8 p.m.		HTML		HTML
12 noon	18 Mar	Working	19 Mar	EZ
7 p.m.		Working		Working
8 p.m.		EZ		EZ
			20 Mar	Frame
				Frame
				Frame Thesis
			21 Mar	Fr. Thesis
				Frame
				Frame Thesis

All minicourses are taught in Room 3-343. Minicourses are one hour each.

FOR COURSE DESCRIPTIONS:

- See "Athena Minicourse Descriptions" on the back of this flyer, or
- use Dash: `Help > Help on Athena > Athena Minicourses > Minicourse Descriptions`, or
- see our Web page: <http://web.mit.edu/minicourse/>

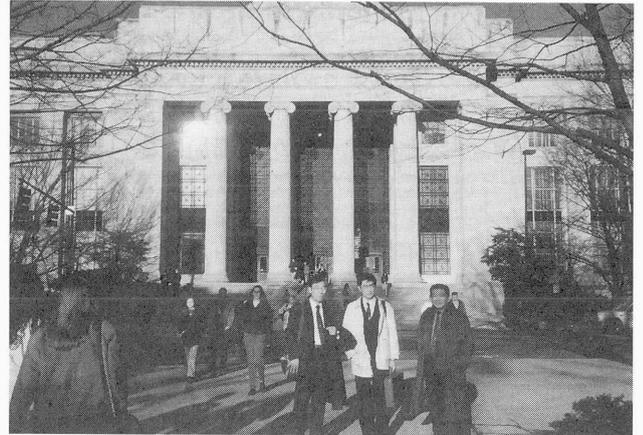
HOW TO REGISTER FOR A MINICOURSE: You Can't! They're free -- No Pre-registration Needed... JUST SHOW UP FOR THE CLASS.

Athena is a registered trademark of Intel® the Massachusetts Institute of Technology

I/S Athena Training Group All Classes in Room 3-343

の玄関は、先のアテナに関連するように大理石で作られたギリシャ風の建築様式でした。

写真1 MIT工学研究科正面入口



2-2. 図書館システムと図書館群(図2)

図書館システムは、ほぼキャンパスの中央に位置するHayden Memorial Libraryを中央図書館として、Baker Engineering、Science(科学)、Dewey(社会科学)、Rotch、Humanities(人文科学)という五つの図書館、より狭い分野に限定されたAeronautics & astronautics: 航空・宇宙工学、Music: 音楽、Earth & Planetary Sciences: 地球・惑星科学、Health sciences: 身体学、Visual materials: 視聴覚資料の五つの支部図書館(分館)、二つの保存図書館(文書類・特殊コレクション、RSCと呼ばれる1963年以前の稀有資料)から構成されています。

保存図書館は、中央図書館内の北側に備え付けられたコレクションとなっていますし、Science、Humanities、Music、Health Sciencesの四つの図書館も中央図書館内にあります。

所蔵資料の規模は、図書資料約220万冊、カレント雑誌の購読タイトル数21,000で、マイクロ資料、地図、スライド、楽譜、音響資料、映像資料、ビデオテープなども収集されています。

2-3. 図書館サービス

10カ所の図書館・コレクションのサービス時間は、必ずしも一定ではなく、Libraryと呼ばれるもののうち、Health Sciencesの

基礎コースとして、Intro: アカウントの取り方、ログイン、Windowsの使い方、メッセージの送り方、Help機能、ドキュメントの見つけ方などを内容とする入門コースから始まり、基礎的文書の作り方、Latex、FrameMaker、MSO、Matlab、Xess、Mapleなどのソフトウェアの使用法、HTML文書の作成方法、ネットワーク上の情報源についての解説等がスケジュールされていました。

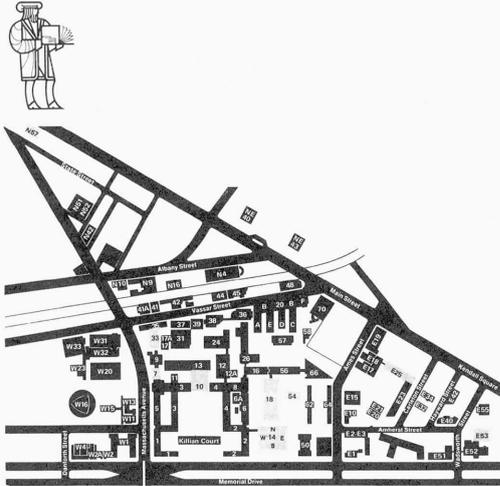
MITnetと呼ばれる本学でいうKUINSにあたるキャンパスLANが敷設されており、このネットワークにキャンパス内にある数千台のワークステーションが接続し、インターネットを介して世界のコンピュータにアクセスできるとのことでした。各ワークステーションでは、前述したATHENAのネットワークサービスが受けられるように設定されているようでした。

対応してくださった方が、京都大学でいう工学研究科の副学(科)長であったこともあり、この一時間の実習を行っている部屋のすぐそばを通りました。ATHENAルームと呼ばれているようで、建物の1階中央部の通路付近にあり、奥の階上に工学関係の図書館である”Baker Engineering Library”があり、入り口付近の大ホール横の2階に建築・都市計画関係の”Rotch Library”、3階に”Rotch Library Visual Collection”がありました。そして、これらの図書館に行く時に通る建物

Shering-Plough Libraryと、CollectionとかService(s)という語が使われているもの以外

図2 The MIT Libraries

図2



	Telephone	Location
Administrative Offices	(617) 253-5651	14S-216
Aeronautics and Astronautics Library	253-5665	33-316
Barker Engineering Library	253-5663	10-500
Computerized Literature Search Service (CLSS)	253-7746	14S-M48
Dewey Library (Management and social sciences)	253-5677	E53-100
Document Services	253-5668	14-0551
Hayden Memorial Library 160 Memorial Drive See Humanities and Science Libraries below.		14S
Humanities Library (Humanities and selected social sciences)	253-5683	14S-200
Institute Archives and Special Collections	253-5136	14N-118
Lindgren Library (Earth, atmospheric, and planetary sciences)	253-5679	54-200
Music Library	253-5689	14E-109
Reserve Book Room	253-5675	14N-132
RetroSpective Collection (RSC) 1 State Street. Call ahead.	253-7040	N57-200
Rotch Library (Architecture and urban planning)	258-5599	7-238
Rotch Library Visual Collections	253-7098	7-304
Schering-Plough Library	253-6366	E25-131
Science Library	253-5685	14S-100

July, 1995

の8つの図書館、および「指定図書」と翻訳されるリザーブ図書室の9カ所が、土曜日は午後、日曜日は午前開館しています。時間は、月～木は午後10～11時までのところが多く、金～土は午後6～7時まで、日曜日は午前10～12時までとなっています。(図3参照)。

開館時間が気になったのは、訪ねたいと思っていた公共図書館(ボストン、ニューヨーク)がいずれも日曜日が休みだったからです。

図書館システムで提供されているサービスは、レファレンスおよび情報支援サービス、図書館間貸出、コンピュータを使った文献検索、文献複写、他地域の図書館へのアクセス、

図3

MIT LIBRARIES FALL AND SPRING TERM HOURS

September 6 - December 22, 1995 and February 6 - May 24, 1996

Term Hours on the web <http://nimrod.mit.edu/common/termhours.html>

Administrative Offices	14S-216 253-5651	Lindgren Library	54-200 253-5679
Mon-Fri 9-5		Mon-Thu 9-9	
Sat-Sun closed		Fri 9-7	
		Sat 11-6	
		Sun 1-10	
Aeronautics and Astronautics Library	33-316 253-5665	Music Library	14E-109 253-5689
Mon-Fri 8:30-6		Mon-Thu 8:30-10	
Sat 11-6		Fri 8:30-7	
Sun 1-5		Sat 11-6	
		Sun 1-10	
Barker Engineering Library	10-500 253-5661	Reserve Book Room	14N-132 253-5675
Mon-Thu 8:30-11		Mon-Thu 8:30-11	
Fri 8:30-7		Fri 8:30-7	
Sat 11-6		Sat 11-6	
Sun 1-11		Sun 1-11	
Computerized Literature Search Service	14S-M48 253-7746	RetroSpective Collection	N57 253-7040
Mon-Fri 9-5		Mon-Fri 9-5	
Sat-Sun closed		Sat-Sun closed	
Dewey Library	E53-100 253-5677	Rotch Library	7-238 258-5590
Mon-Thu 8:30-11		Mon-Thu 8:30-10	
Fri 8:30-7		Fri 8:30-7	
Sat 11-6		Sat 11-6	
Sun 1-11		Sun 2-10	
Document Services	14-0551 253-5650	Rotch Visual Collections	7-304 253-7098
Mon-Fri 9-5		Mon-Fri 8:30-6	
Sat-Sun closed		Sat-Sun closed	
Humanities Library	14S-200 253-5683	Schering-Plough Library	E25-131 253-6366
Mon-Thu 8-12		Mon-Fri 9-6	
Fri-Sat 8-12*		Sat-Sun closed	
Sun noon-12			
Institute Archives and Special Collections	14N-118 253-5136	Science Library	14S-100 253-5685
Mon-Fri 9-5		Mon-Thu 8-12	
Sat-Sun closed		Fri-Sat 8-12*	
		Sun noon-12	

Humanities and Science libraries will be open 24 hours a day for members of the MIT community only one week before and during the final exam period.

SPECIAL SCHEDULES ARE POSTED FOR HOLIDAYS

* Circulation desk closes at 8 p.m.

図書館での研究・調査方法についての利用者教育などで、ツアーやセミナーは年間を通じて実施されています。これらサービスについての情報は、どのレファレンスデスクでも得ることができます。つまり、キャンパスネットワークでこれらのサービスが提供されることとなります。出来る限りたくさんのサービスや情報をワークステーションに提供することを図書館システムの目標としているということです。

また、学習面および身体面でハンディキャップを負った利用者へのサービスのために、ATIC(Access Technology for Information and Computing)と呼ばれるシステムが用意されています。MITの情報システムを利用するためのプログラムが設けられており、そのサービスの一部として、Braille typewriter、Visualtek maschine、Reading Edge Kurzweil reader等が備えられ問題があれば、支援スタッフへの連絡が取れるようです。

外部からの訪問者に対しては、その日限りの利用が認められているが、サービスはかなり限定されたものとなっているようです。

2-4. 図書館目録

図書館で生産してきた情報の主たるものは、目録情報でした。MITでは、大学の創設者の名前 (William Barton Rogers) を付けた BARTONというオンラインシステムが提供されています。このシステムは、MITすべての図書館システムとしてオンライン目録と資料の貸出・返却・予約および受入システムで構成されています。オンライン目録に蓄積されているデータは、1963年以降に受け入れられ、目録が作成されたものが対象で、それ以前のもはマイクロフィッシュで作成されており、“Dewey Decimal Catalog”と呼ばれています。主題・著者・書名からアクセスできるこの辞書体目録に収録されている資料は、RSC(RetroSpective Collection)：保存図書館に収蔵されています。

雑誌目録は、ボストン図書館組合 (Boston Library Consortium) の総合目録がマイクロフィッシュで提供されており、BLCに加わっている15の学術研究機関の所蔵雑誌約12万タイトルが相互に利用でき、BLCの事務局は、Boston Public Library に置かれており、インターネット上のゲートウェイがタフツ (Tufts) 大学に設けられています。アドレスは (telnet:TULIPS.LIB.TUFTS.EDU)。このコンソーシアムでは、この総合目録を基にしたUnCoverサービスも実施されているようで、FAXを使ったデリバリーサービスが提供されているとのこと。ただ、音楽関係、パンフレット、音響資料、写真、マニエスクリプト、文書類、テクニカルレポート、地図、政府刊行物類などは、前述してきた目録では検索できないようで、レファレンス担当者に相談するものとされています。

2-5. 電子的情報源とサービス

Online With Libraries(OWL)は、図書館の担当するネットワークを介したレファレンスサービスであり、各図書館のレファレンス担当が窓口となったATHENAのアカウント所持者が受けることのできるサービスです。BARTONも外部からのリモートアクセスが可能であるが、このOWLは、図書館サービス、施設、コレクションなどに関する情報や、学内の催し・出来事やそのディレクトリに関する (factual and directory) 情報、資料の

問い合わせに対する所在の確定 (Verification of bibliographic reference) などの情報を見つけるために効果的なサービスです。しかも、24時間運用されており、“Athena’s zephyr message system”を使って質問者とレファレンス担当者が相互に応え合うシステムになっており、担当者がいない場合は後で、e-mailで回答されるシステムです。また、BookPageと呼ばれるデリバリーサービスがあり、MITのどのレファレンスデスクに申し込んでも、48時間以内に学内の所蔵する資料で貸出が可能であれば、その資料を配送してもらえということ。さらに、予約制度も設けられており、中央図書館のリザーブームにおいてサービスされているようでした。

WWWでのMIT図書館のホームページは、URLが<http://nimrod.mit.edu>であり、これから覗ける情報は、主題領域毎の情報源、ジャーナル、レファレンスコレクションおよび図書館の開館時間帯とサービスについての内容となっています。

さらに、MIT内のどのレファレンスデスクでも、いわゆるレファレンスサービス (印刷媒体あるいはオンラインのレファレンス情報源の使い方や、オンラインデータベースのクイックサーチ、調査・研究に有用な情報源やサービスの指導、クラスや個人に対するツアーなど) が実施されています。

図書館間貸出サービスは、MITに所蔵していない資料について、学内構成員が利用できるサービスであり、図書館毎に受付がなされています。他大学の図書館の利用については、前述したBLC(Boston Library Consortium)のメンバー館が利用でき、人文科学図書館 (Humanities Library) のレファレンスデスクでBLCカードが発行されており、これを持って行けば希望資料の利用ができるようでした。

また、OCLCの “Reciprocal Faculty Borrowing Program” (研究者間相互貸出プログラム) に参加している160の研究機関の中にMITも参加しており、オンラインでの検索と貸出サービスについてMITの教官層が利用できる。同じOCLCの First Searchは、ATHENAのアカウント所持者であれば誰でも利用可能で、ILLカードキュメントデリバリーかで文献の入手が可能でした。

CD-ROMデータベースは約60種類が提供されており、そのリストがインターネットで公開されており (<http://nimrod.mit.edu/>

common/cdrom.html)、主題分野毎に各図書館でサービスされています。

オンラインで提供されているデータベースとしては、MEDLINE、Avery Index to Architectural Periodicals、Elsevier Materials Science Journalsがあり、ATHENAのワークステーションから利用できるように、Willowと呼ばれるインタフェースが作成・提供・頒布されており環境が整備されています。

2-6. MITの印象

これまでに書き連ねてきた印象を記して、MITの図書館情報サービス・システムの見学記のまとめとします。

第1は、サービスやシステムがコミュニティのものであるという点です。

第2は、ネットワークが有効に働いているという点です。

第3は、構成員に平等に提供できるサービスでありシステムであるという点です。

(参考文献)

1. Guide to MIT Libraries など
 2. Access Technology for Information and Computing at MIT
 3. MIT Bulletin, Graduate School Manual, Facts, Practical Planning Guide など
- @これらの文献は著者の手元にあります。
(続く、次回はUCLAの予定です。)

平成7年度 学術情報センター・セミナー参加報告

附属図書館洋書目録情報掛 忽那 一代

「こんな研修があるけれども、行って見ないか。」専門員から標記の研修についてお話を戴いたのが、暑い夏の盛りの頃でした。期間の長さ・密度の濃いカリキュラムに圧倒され、UNIXの使用経験もない我が身を振り返るほどに募りゆく不安で頭の中が一杯になった頃、研修決定通知が届き、暗澹たる思いで東京へと旅立つことになりました。

この研修は、センターの前身機関での実施を含め昭和47年度から昭和61年度まで開講されていた長期の研修(図書館情報学セミナー、文献情報センターセミナー等)を再開したものです。実施形態としては、中堅職員の研究の場として少数人数を対象とし、受講生が各自課題を自由に選択し、一定期間職場を離れて研究課題を遂行するという以前の研修の形をそのまま踏襲している様です。相違点としては、受講対象者に図書館職員以外に大型計算機センター等情報処理関連機関に勤務する

者を加えたこと、カリキュラムの大きな部分を占めるWS(ワークステーション)実習が目をはきまします。

再開第1回の7年度は、11月6日～12月22日、1月8日～3月15日の前後期を合わせて17週間の日程で実施されました。カリキュラムは、前期は1週間に2～3コマの教官による一般講義と主にWS実習で構成され、後期は全て個別研究に割り当てられていました。受講生は北海道・京都・鹿児島の大大学附属図書館から参加することとなった男性2名女性1名の計3名です。話してみれば同じような不安を抱えた年齢も環境も似通った3人であり、宿舍も同じということで長い研修を共に過ごすにあたり、何となくほっとしました。

研修期間を過ごす部屋として与えられた「セミナー員室」は研修課長室のすぐ隣にあり、大学の研究室程度の広さで、両壁際には机とロッカーが2組と1組に分かれて配置され